

<全体分析>

試験時間

80分

解答形式

すべてマーク式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

英文の総語数は1,981で2022年度の1,498から大幅に増加しているが、設問数は49で2022年度から1問の増加のみである。

出題の特徴

- ・語彙力に関する問題、会話の空所補充問題、インタビュー形式の問題、読解総合問題などがバランスよく出題される。
- ・設問の指示や選択肢はすべて英語である。
- ・2020年度に復活したインタビュー形式の問題は4年連続して出題されている。（1999年度、2004年度、2006～2011年度、2014年度にも出題されてきた）。

その他トピックス

- ・ここ数年、大問Iでは単語に関する問題が新たな形で出題されている。
- ・かつては頻出だった文法・語法の正誤判定の問題は4年連続して出題がない。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	その他	語彙に関する問題	下線を挟んで左右に単語が示されたものが 10 組あり、各組で左右それぞれの単語と組み合わせて別の単語になる単語を選ぶ問題。設問と選択肢が同数なので、すぐに思いつかないものは後回しにして、わかったものから確定し、最後に残ったものがうまく合うかで最終的な判断をするような解き方をするのがよい。	標準
II	読解総合	「老女の家に入り込んだ男が見つけた不思議なランプ」 (278 words)	本文中の下線を引かれた語の定義として適切なものを選ぶ問題。定義は英語で書かれている。下線部の語は難しいものが多いので、単に語彙力だけでなく、文脈から判断して正解を求める読解力が必要。本文中の働きから下線部の語の品詞を判断し、それに合わせて選択肢を絞り込む。大問 I と同様、確定しにくいものは後回しにするのがよい。	やや難
III	その他	会話文 「成人年齢引き下げに関する高校生の会話」	[A]・[B]ともに空所補充。 会話表現に関する知識を問う問題というよりは、文の構造や指示語の指示内容を考えて解く読解要素の強い問題。[A]は(22)が入れにくく最後に残るだろう。[A]3の for one は主語と動詞の間に置かれて、「個人としては」という意味。	標準
IV	その他	「ある俳優へのインタビュー」 (729 words)	インタビュアーの言葉とそれに続く俳優の適切な返答を組み合わせる問題。 インタビュアーの前後の発言や選択肢の中に含まれている代名詞等に注目して考えると正解がわかる問題が多い。	標準
V	読解総合	「TikTok の普及戦略」 (974 words)	内容一致、空所補充、文整序、内容不一致、語句整序、タイトル選択 (41)は5文の整序問題だが、5つの選択肢が与えられているので、それぞれを当てはめて考えればよい。 (44)―(45)は operations の位置が決めにくい。ただ、次の段落の1文目を見れば使い方は明らかなので、もし間違えていたとしても戻って修正はできるだろう。	やや易

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・例年、語彙力を問う問題が多く出題されるので、単語・熟語の確実な知識の習得が欠かせない。
- ・読解総合問題では、難度の高い英文が出題されることもあるので、少し難しめの英文もとりにいれながら読解力を高めておくとよいだろう。その際、パラグラフごとに内容を把握することを心がけよう。